50年後の道民に引き継ぐ思い

つたえあう、つながりあう。
私たちの北海道ストーリー。

多くの人たちの労苦と知恵とチャレンジ精神によって築かれてきた北海道。先人に学び、感謝しながら、私たちは北海道への想いを次代へとバトンタッチしていきます。世界のどこにも例のない、北の大地の歴史と文化と自然。その素晴らしい価値を、広く、深く伝えながらさらに創造していきます。

空から見た野幌森林公園

起草　北海道の歴史文化施設活性化に関する懇談会　座長　臼井栄三

エリア再生に向けた「具体的な取組」の進め方

○　道では、構想の実現に向け、本文中に記載した「具体的な取組」に関する事業を、実施可能なものから順次取り組みます。

○　取組は、北海道博物館の「第２期中期目標・計画」（2019年度策定予定）や（仮称）「北海道開拓の村維持修繕活用方針」（同）に基づき、計画的に推進します。

※　開始年度（予定）

・ 現在、既に取組を進めている事業については、「継続」と記載していますが、構想の趣旨や新たに定める北海道博物館の「第２期中期目標・計画」及び北海道開拓の村の「維持修繕活用方針」の内容を踏まえ、適宜、事業の見直しを行います。

・ 構想の策定に基づき、新たに取り組む必要のある事業については、開始予定年度を記載しています。

施設名	具体的な取組	開始年度（予定）	備考
北海道博物館	第２期中期目標・計画の策定及び推進		
	第２期中期目標・計画の策定	2019	
	第２期中期目標・計画の推進	2020	計画期間 5カ年
	魅力向上に関する取り組み		
	中核的博物館としての機能充実、道内博物館等との連携強化	継続	
	博物館参加組織等の導入	継続	
	民間企業等と連携した企画展の取組	継続	
	生涯学習や学校教育への支援の充実	継続	
	ＩＣＴを活用した情報提供と地域住民等との連携	継続	
	外部資金の導入・活用の検討	継続	
	出前講座の実施など地域とのネットワーク構築	継続	
	利用者ニーズ等を踏まえた展示の入れ替えの検討やリピーターの確保	継続	
	「はっけん広場」の運営と活動の充実	継続	
	情報発信力の強化による認知度の向上	継続	
	博物館実習生等の人材育成	継続	
	交流人事など組織の活性化の検討	2019	
	博物館等の回遊性を高める取組	継続	
	国立アイヌ民族博物館等との連携		
	国立アイヌ民族博物館との共同研究等の実施	検討	国立アイヌ民族博物館の開設状況を踏まえ開始時期を検討
	アイヌ文化に関する調査研究等の機能の充実	検討	
	指定管理者制度の見直し		
	指定管理者制度見直しへの対応検討	2019～	
	自主企画事業の範囲を整理		
北海道開拓の村	博物館としての役割を基本とした、観光拠点、古民家再生等人材育成拠点としての活用		
	展示建造等の維持修繕活用方針の策定	2019	

	代替素材活用の検討	検討	維持活用方針の内容を踏まえ開始時期を検討
	民間の資金や活力の導入の検討	検討	〃
	道内児童、生徒の利用拡大に向けた取組	継続	
	障がい者に配慮した展示方法等の検討	継続	
	宿泊や着付け等の体験型プログラムの充実	継続	
	民間企業と連携した発信力の強化	検討	維持活用方針の内容を踏まえ開始時期を検討
	ヘリテージマネージャー研修等との連携による展示建造物の保存活用	検討	〃
	修繕業務における道内の技術者、地域材の積極的活用（修繕業務の「地産地再」）	検討	〃
	指定管理者制度の見直し		
	指定管理者制度見直しへの対応検討	2019～	
	自主企画事業の範囲を整理		
北海道百年記念塔	公園利用者の安全対策、先人の思いを引き継ぐ取組		
	百年記念塔の解体	2019～2021	
	百年記念塔に関する思い出や記録の整理		
	百年記念塔に代わる新たなモニュメントの設置		
	利用規制の緩和に向けた検討	2019	
	施設の適正管理による安全性の向上	継続	
野幌森林公園	自然の保全及び公園利用促進の取組		
	関係機関と連携した森林の保全活動を推進	継続	
	自然観察会などの活動充実	継続	
	森林公園内施設のユニバーサルデザイン化の検討	継続	
	施設の適正管理による安全性の向上	継続	
	エリア全体を表す愛称の募集と普及の検討	2019	
	指定管理者制度の見直し		
	指定管理者制度見直しへの対応検討	2019～	
	自主企画事業の範囲を整理		
近隣施設との連携	文化・スポーツ施設等との連携による魅力的な交流空間として再生するための取組		
	各施設と連携したイベントの開催の検討	2019	
	各施設と連携を図るための遊歩道の環境整備の検討	2019	
	施設情報一元化による情報発信	継続	
	図書・資料情報の共有による利用の円滑化の検討	2019	
	施設相互利用のモデルプランの検討	2019	
	住民参加による屋外縄文施設の整備を検討	2019	
	民間バス会社等との連携による交通アクセスの改善	継続	
	レンタサイクルの導入に向けた民間事業者との協議	2019	

資料編

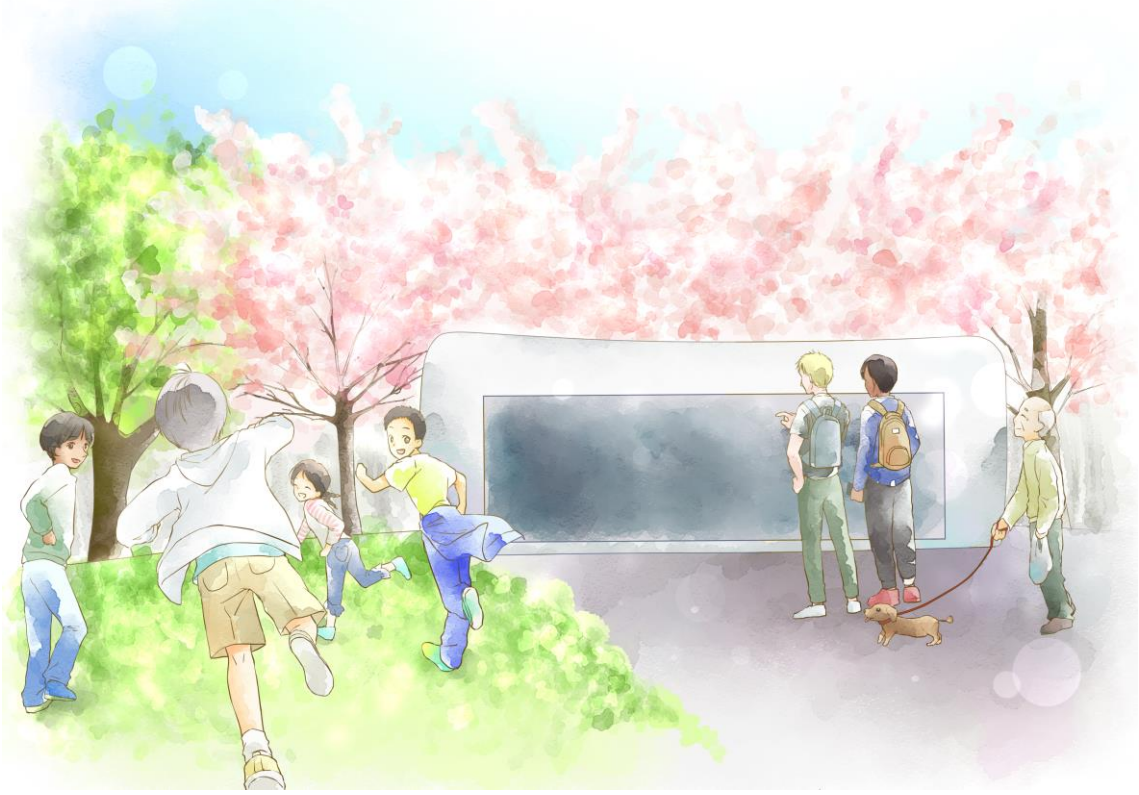
イメージ図

【子どもから大人まで多くの人が繰り返し訪れる北海道博物館】

【国内外からの旅行者をターゲットにした観光拠点としての開拓の村】

【開拓の村を古民家再生等人材育成拠点として活用】

【幾多の先人の思い、多様性を認め合う共生の立場、未来志向に立った将来の北海道を象徴するモニュメントの例】



【国内外からも数多くの方々が訪れ、家族や仲間と楽しむ交流空間】

【野外の自然に親しむ場として、あらゆる方々が安心して公園を利用】

【近隣の文化・スポーツ施設等と連携を図り、魅力的な交流空間として再生】

illustration：あいば ゆう

【第２回北のまんが大賞　大賞受賞者】

構想策定経過（Ｈ２８～）

年度	実施日等	内容	関連ページ
２８	10 月 28 日	第 1 回北海道の歴史文化施設活性化に関する懇談会開催	P22
	11 月 26 日	第 2 回北海道の歴史文化施設活性化に関する懇談会開催	P22
	２月 17 日	第 3 回北海道の歴史文化施設活性化に関する懇談会開催	P22
２９	６月　７日	第 4 回北海道の歴史文化施設活性化に関する懇談会開催	P22
	10 月 31 日	第 5 回北海道の歴史文化施設活性化に関する懇談会開催	P22
	11 月	百年記念施設の継承と活用に関する考え方策定	※
３０	４～６月	住民等を対象としたアンケート調査実施	P32
	４～７月	専門家ヒアリングの実施	P28
	５月９､23 日	大学への出前講座実施	P31
	５月 19､20 日 ６月 10 日	百年記念施設の継承と活用に関する道民ワークショップ開催	P23
	５月 31 日	第 1 回ほっかいどう歴史・文化・自然「体感」交流空間構想検討会議開催	P34
	７月 13 日	第 2 回ほっかいどう歴史・文化・自然「体感」交流空間構想検討会議開催	P34
	８月 22 日	第 3 回ほっかいどう歴史・文化・自然「体感」交流空間構想検討会議開催	P34
	９月 11 日 ～10 月 10 日	構想（素案）公表及びパブリックコメント募集	※
	10 月 22 日	北海道開拓の村に関する意見交換会開催	P35
	11 月 27 日	パブリックコメント実施結果及び構想（案）公表	※
	12 月	ほっかいどう歴史・文化・自然「体感」交流空間構想策定	

※　百年記念施設の継承と活用に関する考え方、構想（素案）、構想（案）、パブリックコメント実施結果については、北海道環境生活部文化局文化振興課のホームページをご覧ください。
（http://www.pref.hokkaido.lg.jp/ks/bns/saiseikoso.htm）

北海道の歴史文化施設活性化に関する懇談会

１　目的

北海道百年記念施設として設置された北海道博物館及び百年記念塔は、昭和 46 年に、また、北海道開拓の村は昭和 58 年にそれぞれオープンし、これまで道内外の多くの人たちに利用され今日に至っている。

平成 30 年に北海道 150 年を迎えるにあたり、道民の貴重な財産である当該施設を将来に向けて、どのように後世に伝えていくことが相応しいのか、学識経験者等から幅広く意見を聴取するため、「北海道の歴史文化施設活性化に関する懇談会」を開催する。

２　議題

（１）百年記念施設の活性化と安定的な運営を図るための方策について

（２）その他、百年記念施設の活性化と安定的な運営に関し、必要な事項

３　構成

氏　　名	所属・職名（※懇談会開催時）
臼井　栄三	(国)北海道教育大学岩見沢校　特任教授
戎谷　侑男	(株)シィービーツアーズ　代表取締役社長
佐々木亮子	(有)アールズセミナー　代表取締役
中田美知子	(学)札幌大学　客員教授
西　　吉樹	(一財)北海道歴史文化財団　業務執行理事法人本部長
西山　徳明	(国)北海道大学観光学高等研究センター　センター長
山崎　幹根	(国)北海道大学大学院法学研究科・法学部　教授

４　開催状況

第１回　平成 28 年 10 月 28 日（金）　道庁赤れんが庁舎

第２回　平成 28 年 11 月 26 日（土）　北海道博物館（現地調査含む）

第３回　平成 29 年　２月 17 日（金）　道庁赤れんが庁舎

第４回　平成 29 年　６月　７日（水）　道庁赤れんが庁舎

第５回　平成 29 年 10 月 31 日（火）　道庁別館

百年記念施設の継承と活用に関する道民ワークショップ

１　開催目的

百年記念施設を含む周辺地域を、今後の 50 年、100 年先をも展望しながら、次の世代にどのように引き継いでいくのかについて、道民や地域の関係団体の皆様から幅広くご意見を伺う。

２　テーマ

50 年後を見据えた自然・歴史・文化「体感」交流空間としての再生

３　開催状況

（１）一般道民対象

第１回　平成 30 年 5 月 19 日（土）14 時～17 時

場所：北海道博物館　参加者：４０名

第２回　平成 30 年 5 月 20 日（日）14 時～17 時

場所：北海道博物館　参加者：４０名

（２）北海学園大学（学芸員課程）

平成 30 年 6 月 10 日(日)　13 時 30 分～16 時

場所：北海道博物館　参加者：　９名

４　主なご意見

【北海道博物館について】

[価値や魅力]

・北海道の長い歴史をわかりやすく学ぶことができ、先人の苦労がよくわかる。

・貴重な資料が豊富に収蔵されている。

・案内、展示、見せ方、構成、説明内容が子どもにとっても非常にわかりやすい。

・北海道の人でも気付きがある、新しい発見がある。

・建築物、建築空間が魅力的で価値が高い。

・北海道を好きになるきっかけになる。　等

[価値や魅力を多くの人に体感してもらう取組]

・地域への出前講座、出張博物館、展示の貸出など地域とのつながりを強化する。

・個人運営の資料館や他の博物館、学校、研究機関と連携した取組みを進める。

・お土産を充実させる、飲食・物販を充実させる、ここでしか手に入らないものを開発する。
・アイヌ文化の発信に力を入れる、歴史の負の部分をもっと語る。
・訪れたあとにさらに学びたくなる展示や情報提供の工夫。
・博物館ツアー、講座の充実、周辺施設の魅力も発信、北海道と本州や海外とのつながりを伝えるなど、魅力を伝える情報発信の工夫。
・維持費の確保。　等

【北海道開拓の村について】

［価値や魅力］

・当時の街並み､文化､暮らしなどを体感でき､歴史に興味を持つきっかけになる。
・個々の歴史的建造物が魅力的｡貴重な文化財としてしっかり保存されている。
・外国人､本州から来た人､研究者などに北海道を伝えられる場となっている。
・タイムスリップした別世界、テーマパーク、アトラクション的な楽しさがある。
・ボランティアの皆さんによる運営がよい。
・昔の想い出がつまっている。地域に愛情を持つきっかけになる。　等

［価値や魅力を多くの人に体感してもらう取組］

・宿泊して昔の暮らしを体験できるようにするなど、柔軟な運営を行う。
・昔の食事や祭りの再現、昔の衣装の貸し出し、写真撮影サービス、各建物における物販、職人の技術研修、歩くスキー大会、親子クイズ大会、特別展示の充実、イベントのシリーズ化・定例化、動物とのふれあい、ナイター営業など体験コンテンツや来たいと思える動機付けを充実させる。
・飲食、遊び、他施設の利用など、他の目的で訪れる人の利用者を増やす。
・歴史的建造物のさらなる受け入れ、建物の維持管理の充実、技術継承や歴史研究の場としての活用など、文化の継承拠点としてさらに力を入れる。
・積極的な活用ができる管理団体・方法の検討。
・維持管理に必要なお金をかけ文化を継承する。　等

【北海道百年記念塔について】

[価値や魅力]

・どこからでも見える、遠くからでも見える、帰ってきたと思えるシンボル、ランドマーク、モニュメント、生活風景の一部。

・過去への敬意の象徴である、作った人の熱意を感じる。

・形としてきれい、かっこいい素材感や色彩。

・広場が広々としている。

・記念塔の目的は時代とともに変化する、色々な立場での思い・意見がある。

等

[価値や魅力を多くの人に体感してもらう取組]

・残したい、登れるようにしたい、残す方法を考える（広場を活用してお祭りや家族で楽しめるイベント、コンサート、塔のファンを増やす工夫でさまざまな世代が親しめるようにし観光や経済に役立てる、アイヌ民族の方の思いもふまえる、クラウドファンディング等で寄付を集める、施設の有料化、施設周りの広場での収益事業等）

・解体した方がよい（危険性が高い、費用・税負担が高い、アイヌ文化に対する再認識の必要性、開拓以降の歴史だけにこだわると北海道のイメージが悪化する等）

・除却となった場合、その価値を継承するための代替策を考える（ミニ記念塔、同じ高さの展望台、建て替え、AR・VR 記念塔、ビジターセンターの設置等）

【野幌森林公園や周辺施設について】

[価値や魅力]・原生林の豊かな緑、地域固有の動植物が魅力的である。

・都会の近くにある大自然として貴重である、自然と文化が一体となっている。

・散策、イベントや観察会の開催など遊び場、教育の場として活用されている。

・アイヌ文化の歴史観、自然観を感じられる。

・多様な施設が集中している。

・外国人なども訪れる観光資源。　等

［価値や魅力を多くの人に体感してもらう取組］

・都市近郊の自然、動物、生き物を観察できることを情報発信する。

・ネイチャーガイドのさらなる周知と活用、養成と体験プログラムづくり。

・自然体験だけでなく、アスレチック、ボルダリング、花を楽しむ場、音楽フェスなど公園に訪れるきっかけをつくる。

・だれにとっても歩きやすい散策路づくりを進める。　等

【エリア全体で連携した取組等】

・施設単体で紹介するのではなく、全体のわかりやすいストーリーを組み立ててＰＲする。

⇒博物館で全体を、開拓の村で直近 100 年ほどの歴史を、森林公園で自然を知ることができ、全体がつながっている。50 年単位での変化を記念するモニュメントをつくる、全体のパンフレットづくり　等

・魅力の伝え方､使い方を工夫して､まず来てもらいリピーターになってもらう。

⇒自然を四季折々で楽しめる、「ここに来ると１日楽しめる」ことを PR する、１日モデルコース、教育機関との連携強化、修学旅行や宿泊研修での活用促進、昔 UFO が見えたなど都市伝説をつくる、札幌中心地から近いことをもっと全国・国外にアピール、熊もいなくて夜の森も安全、120 万年前からの歴史のある大自然、写真映えするスポットの宣伝、デートスポット宣伝　等

・相手に届く情報発信の手法を工夫する。

⇒今ある資料を最大限に活用、大学生参加のパンフレット作成、テレビ・ラジオ・パソコンによるわかりやすいコマーシャル制作・発信、SNS 活用、動画制作、ドラマ・マンガ・小説などを活用、小中学生体験学習の副読本を作成　等

・民間企業や施設と連携した広報・企画戦略を強化する。

⇒ホテル、旅行会社、JR、バス、商店街、飲食店などとの連携、円山動物園と連動､周囲のゲストハウスとコラボした集客､パッケージツアーの実施、ロケ地活用。　等

・アクセス性や回遊性の向上を図る。

⇒都市部からの直通バス、12 号線入口のサインを見やすくする、JR 大麻駅や新札幌駅からのバス増便、無料循環バス、セグウェイ活用、レンタサイクル、サインや動線など施設全体で連動させる。　等

・様々な世代が来たいと思える「個性」「楽しみごと」「コンテンツ」を増やす。
⇒家族連れでピクニックやキャンプができる空間づくり、マラソン・サイクリング、歩くスキーのコースづくり、冬の遊び体験、ここでしか手に入らないものの開発、花火大会、マラソン大会のコース設定、自然の美しい景色とセットとなった美味しいレストラン、目玉になる野外コンサート、スタンプラリー、続縄文文化をうけてアーティスト・音楽・自然・歴史の融合の場づくり、研究者が集まる場に、エゾシカ料理など北海道の「食」にふれる機会づくり、縄文太鼓の音楽会、地域密着のイベント、自転車のイベント、運動会の会場にする、フリーマーケットやマルシェを行う、グランピングができるようにする。　等

・入場券配布や料金設定の工夫をする。
⇒共通券や割引券の発行と積極的配布、家族で利用しやすい料金設定、入場料無料デーを年に何回か設ける、割引クーポンや○○パスの強化。等

・継承や活用費用の自立的な捻出方策を工夫する。
⇒民間との連携、寄付、クラウドファンディング、イベント参加費、入場料収入。　等

・継承や活用を住民参加や官民連携で検討・連携できる場や組織をつくる。
⇒周辺施設や各施設の情報共有の連絡会議、札幌市厚別区や江別市と連携。等

専門家ヒアリング

１　目的

本構想の検討にあたり、ヘリテージマネージャー、古民家再生、公園デザイン、資金調達、交通事業者、施設利用者や学識者など各界の専門家より、それぞれの立場からご意見を伺う。

２　ヒアリング実施先

（１）ご協力いただいた企業・団体等（順不同・敬称略）

株式会社ＡＣＴＮＯＷ　（資金調達）

厚別区ＰＴＡ連合会　（公園利用者）

株式会社アトリエ・モリヒコ　（古民家活用）

株式会社ＫＩＴＡＢＡ　（公園デザイン）

株式会社キタバ・ランドスケープ　（公園デザイン）

有限会社クンスト　（芸術家）

ＮＰＯ法人旧小熊邸倶楽部　（古民家再生）

ジェイ・アール北海道バス株式会社　（交通事業者）

障がい当事者講師の会すぷりんぐ　（公園利用者）

新日鉄住金株式会社　（素材メーカー）

武部建設株式会社　（古民家再生）

伝統建築技能集団建築ヘリテージサロン　（技術承継）

株式会社日本政策投資銀行北海道支店　（資金調達）

株式会社北洋銀行　（資金調達）

株式会社北海道銀行　（資金調達）

一般社団法人北海道建築士会　（技術承継）

株式会社北海道チャイナワーク　（インバウンド観光）

北海道文化審議会委員　（有識者）

北海道立総合博物館協議会委員・特別委員　（有識者）

認定ＮＰＯ法人ポロクル　（交通事業者）

株式会社Ｍａｍｍｙ Ｐｒｏ　（公園利用者）

（２）ご協力いただいた学識者（順不同・敬称略）

札幌市立大学デザイン学部

教授　　羽深　久夫（歴史的建造物の保存再生）

北海道科学大学工学部

教授　　田沼　吉伸（建築鋼構造）

北海道大学

名誉教授　石山　祐二（構造力学、地震工学）

北海道大学大学院工学研究院

教授　　菊地　　優（建築構造学）

北海道大学大学院文学研究科

教授　　佐々木　亨（博物館学）

３　主なご意見

【エリア全体に対するご意見】

・団体客が入れば SNS で情報が発信され、話題が広まるので FIT（個人手配の海外旅行）は放っておいてもそこから波及する。

・期間限定でも札幌駅からのシャトルバスがあると良い。

・札幌周辺は、冬の観光コンテンツが少ないので重要な施設だと思うが、観光地としての認知度が低い。

【北海道博物館に対するご意見】

・バリアフリーがしっかりしており、スタッフの気配りにも感心した。

・計画に掲げている目標は素晴らしいが、実現に時間がかかっている印象。

・住民参加型博物館として他県では経営に参画するところまできている。

・多文化共生ということでアイヌ展示はよくやっているが､アイヌの方々の企画への参加もあれば。

・他県では、学芸員が行政職を経験するように人事交流をしている事例がある。

【北海道開拓の村に対するご意見】

・森の中にあることが北海道らしい。工夫次第では、札幌近郊で一番の可能性を感じる。
・昼食を魅力にできるかが大事。宿泊施設があると良い。
・古民家を活用したカフェということでは､大手チェーンも興味を持っている。
・施設そのものの改修はお金がかかるので､調理はキッチンカーなどで対応も。
・建物が元々有する機能により活用ができればおもしろいと思う。
・全体的に段差やスロープなどのサインが足りていないところがある。車いすで見られる施設は案内看板やパンフレットで表示してもらえるとよい。
・車いすが入れない施設は、入口などに内部がわかる写真など資料ファイルがあると想像できてよい。
・指定管理の仕様書の内容自体をプロポーザルで募集している例がある。
・修繕費をクラウドファンディングで調達するには、建物一つ一つのストーリーを踏まえたイベントとセットにしたコンテンツをつくることが必要。
・日本の家屋は、日常的に破損が見えたときに少しずつ直す方がよい。多能工が常駐し、修繕管理することがベスト。また、修理作業をワークショップとして見てもらうことも。
・建造物の維持・修繕のための技術者、原材料の地産地消が理想。
・施設によっては、屋根に鉄板を敷いた上に柾をかけることで耐久性の向上が図られる。
・観光に活用する施設は、断熱や気密性の技術を入れないと活用は難しい。
・大工の技術研修の場として活用することで、技術の継承も図れる。
・ヘリテージマネージャーの研修時期の宿泊代が高く、開拓の村内に宿泊できる施設があればと思う。
・施設ごとに自由研究の題材になるコンテンツを持つと、夏休みの親子づれの入場者が増えると思う。

【北海道百年記念塔に対するご意見】

・昔はどこからでもよく見えたが、最近は見えなくなった。とはいえ、地域のシンボルとしてできれば残してほしい。

・時間の経過でますます価値が高まるという視点もある。一方で多文化共生の立場から解体することもありかと思う。

・百年記念塔の解体材でモニュメントを作成。スパンは長いが鉄も土に帰る、縄文、アイヌ文化にもつながる考え方。

・これ以上の腐食進行を抑制するためには、雨水の浸入を抑制するための対策や排水の工夫等の補修対応が必要と考えられる。

・耐震性、耐風性の担保など安全性が第一である。錆片など飛散物もあることから、現状を維持しようとして周囲に立入禁止エリアをつくっても、上部の鉄板が落ちるようなことがあれば安全とはいえないのではないか。

大学への出前講座

1　開催状況

・北海道大学法学部演習Ⅱ（地方自治論）

日　時：平成 30 年５月９日（水）17 時～19 時

出席者：ゼミ生 18 名

・札幌学院大学経営学部専門ゼミ

日　時：平成 30 年５月 23 日(水）13 時～15 時 30 分

出席者：ゼミ生 15 名

2　北海道百年記念塔に対する主な意見

・北海道開拓の歴史を伝える存在として必要と思います。

・地元の人､観光客が集まる場所のシンボルマークとして保存すべきだと思う。

・シンボルとして残すことを考えた場合、費用に見合うだけの知名度があるか怪しく、今後の維持費のことを考えると解体も仕方ないように思える。

・道民の意見を聞いた上で検討するのがいいと思います。道民の多数が残さなくても良いと思うなら残す必要はないと思います。

・道外出身の私にとって、北海道の自然や景色それ自体が誇りです。
・百年記念施設は知名度がないので、ヘルメットカメラやドローンなどでＰＲ動画を作成し、動画投稿サイトで紹介。
・祭りを開催、博物館から百年記念塔の間に出店をおき、賑わいをつくる。
・これからも修繕費がかかり続けるなら、解体したほうがよい。

住民等を対象としたアンケート調査

１　施設利用者に対するアンケート（結果は次ページ、図１参照）

・期間：平成 30 年４～６月　調査数：大人 155 名　小中学生 40 名

２　全道の社会人及び大学生に対するアンケート

（結果は次ページ、図２参照）

・期間：平成 30 年４～６月　調査数：社会人 515 名、大学生 175 名